

# GEOTRACES SSC 及び DMC 結果概要

海洋情報部海洋情報課 馬場典夫

2009年11月米国ワシントンDCのAGU本部会議室で開催されたGEOTRACESのSSC(11月4~6日)及びDMC(11月7日)に参加してきましたので、その概要を報告します。当初富山大学の張教授も出席予定でしたが、急病のため日本からの参加は、私のみでした。今回米国での開催であったことからNSF関係者の参加もありSSCは総勢30名でした。

## 科学調整委員会 (SSC)

SSCでは、参加17カ国の活動状況が報告され、インドは5カ年計画総額400万ドルの9件プロジェクトが承認されたこと、中国や台湾での活動も本格化してきていることが報告された。日本については白鳳丸によるインド洋の航海が11月6日に出発することが報告された。

GEOTRACESの国際プロジェクト事務局の開設にあたり、事務所長の採用手続きが進んでおり、候補者が3名に絞り込まれ第一候補者と条件について調整中、予定では2010年1月1日就任予定。

GEOTRACESのデータについては、Transection, ProcessStudyに加えComplianceとすること、歴史的データは参考とするもののGEOTRACESのデータに含めず別に取り扱うことが決定された。

プロジェクトの推進にあたりPICES,CLIVAR,SOLAS,IMBER等との連携を深めることが確認された。

また普及啓発のためにパンフレットを作成することとし、政策決定者中心を対象としたものと、研究者向けにフィールドプログラムを紹介するものを作ることとなった。政策決定者向けは目を引く内容で簡潔なものにすることが決定された。

各国の活動報告をWebで紹介することとし、毎年更新する。締め切りは6月15日。

プロジェクトの推進に係るIPOや関係委員会会議、GDACの運営予算は、各国の拠出によりまかなわれている。このうち米国のNSFによる支援が最大。インドも来年度GDACの運営に2万ドルを拠出することと表明。しかしながら2012年度は資金の不足が予測されることから、各国継続し協力することが求められた。今年の拠出を予定している機関にはSCORから請求書が送られる。

次回SSCはIPOのフランスでの開設もあることから、フランスで開催する方向で調整することとし、意向アジア、米国、ヨーロッパで順に開催することで基本的に合意された。

## データ管理委員会 (DMC)

データ管理委員会は、米国、英国、ドイツ、日本からの8名が参加し開催された。

日本からはGEOTRACESの取り組み状況とJODCにデータ管理事務所(DMO)を設立する案の検討状況を説明。GEOTRACESのデータ管理にあたり、各観測ラインの命名について議論され、基本的には従来の考え方に従うものの、番号を振りなおすことが決定、そのために日本の2011年2012年の計画概要が必要。またラインを外部での発表等で使う場合、CLIVARのラインとの混同を避けるため、GEOTRACESのラインであることを明示する必要

性が指摘された。

データポリシーについて見直しが行われ、航海概要報告(CSR)及び航海報告はそれぞれの国の規則に従い提出。PostCruiseMetaはPreCruiseMetaを更新したものであることが確認され、航海終了後1週間以内に提出、各観測項目の担当者、採水方法、分析方法を明記することがもとめられることとなった。

データについても CTD はキャリブレーション済みのもの提出することとし、他の栄養塩等のデータとともに観測終了後 6ヶ月以内に提出となった。

データの秘公開期間についても、観測終了後 2 年間から、化学系データに分析に時間を要することを考慮し、データ取得後 2 年間もしくは論文発表までどちらか短い期間とすることが決定された。

今後も GEOTRACES のデータ管理には各国のデータセンターを取り込むことが重要であり、今後もその努力を継続すること。次回データ管理委員会でも近隣のデータセンターが参加するよう働きかけることが確認された。

## 日本に求められるアクション

今後の日本の行うべきアクションとして次の事柄が挙げられる。

1. 来年 10 月台湾台北で開催される第 3 回 Asia-GEOTRACES ワークショップについて、中国、台湾関係者と協力し日本の協力の仕方について調整する。
2. 各国の Sampling System のリストについて、コンタクトリストの追加要請がある予定であることから、求められる情報を見直し、提供する。
3. 日本からの資金援助について、SCOR からの請求に迅速に対応、また継続的に資金援助の可能性を検討する
4. IPO で各国のレポートが掲載される予定であり、毎年更新の予定。次回 6 月 15 日締め切りであることから、日本の活動を取りまとめる準備をしおき、期限までに提出できるよう準備しておく。
5. Standard and Intercalibration への積極的な参加
6. Intercalibration の継続のための Time Series を、日本近海で実施する必要性の検討
7. 各航海のメタデータの収集。とくに Compliant として日本はどのクルーズを登録できるかも検討
8. データの精度は落ちるものの GEOTRACES に貢献が期待できる歴史的データの有無の確認
9. SSC 追加メンバーの候補者の検討
10. 日本の 2011, 2012 年の計画している航海の航跡案の提出
11. JODC - DMO のホームページの修正
12. 日本の関係論文・書籍情報の収集

-----